

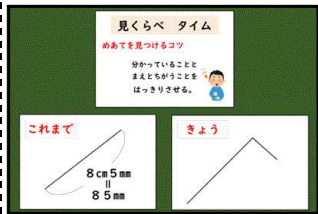
第2学年算数科「予想した長さを、正確に測って確かめよう ～長さ～」

学習指導者 井下 修一

課題を設定するために、「分かっていることと、前と違うことを明らかにする」という方法を習得できるようにしました。分かっていることを明確にするために、前時の板書や振り返りカードなどのうち、振り返りやすいものを使って、分かっていることを伝え合う場を設定し、前と違うことが明確になるように、本時と前時の問題を並べて提示し、分かっていることと比較しやすくしました。

折れ曲がったものの長さは、どうやって測ればいいのか

【見通し】



教師が、「目当てを見付けるためには、どうしたらよかったかなと問いかけることで、方法を想起させました。分かっていることを伝え合い始めたペアを価値付けることで、他のペアも話し合いが活発になりました。前時と本時の問題を並べて掲示して比べやすくし、前と違うことを話し合う場を設定することで、違いを明確にし、課題を設定しました。

【行動】



長さを測定する対象物を提示し、どれくらいの長さかを予想できるようにしました。その後、長さを確かめる方法を尋ねることで、これまでと同様に「二つの直線の長さを測定する」ことに加えて、「その二つの長さを合わせる」という考えを引き出しました。その後、ものさしの教具を使用して数を数えることで長さを調べたり、立式して計算したりして長さを求めていきました。その際、単位をそろえて計算することや式によさに気付けるようにしました。課題解決後に、他にどんなことができそうか尋ねることで、二つの長さの違いを求める場面を子供たちから引き出し、課題を解決していきました。そして、課題解決過程を振り返らせることで、長さの引き算も単位をそろえて計算することで、解決することができたことを共有しました。

【振り返り】



本時の学びが明確になるように、「分かったこと」と「その理由」をワークシートに記述できるようにしました。その後、数名の子供に発表を促し、教師が同じ考えの子供に挙手で表出させることで、より多くの子供が分かったことを表出できるようにし、次時の導入に生かせるようにしました。



成果と課題

○働きかけを行うことで、課題を設定する方法の良さを実感し、どの子供も分かっていることと、前と違うことを明らかにすることが習慣化されてきた。また、自発的に課題を設定する方法を活用する姿が他の単元や他教科でも見られている。  
●課題を設定するためには、その方法を理解していることに加え、動機づけが欠かせない。本時であれば、折れ曲がったものを子供が見付けていたり、つくったりしていれば、より長さを測定する必要感が出たのではないかな。